



2008年11月7日  
MR/J46/08



UNITED NATIONS  
UNIVERSITY

メディア用原稿  
非公式記録

国際連合大学 広報部  
〒150-8925  
東京都渋谷区神宮前 5-53-70

Tel.: +81-3-5467-1212  
Fax: +81-3-3499-2828  
E-mail: media@unu.edu  
Website: <http://www.unu.edu/>

## アジア沿岸水域の有機汚染物質との闘いにおける 学術機関と民間企業の協力を考える国際会議

イベント： 国際会議「アジア沿岸水域における環境モニタリングと管理」  
テーマ： 「ストックホルム条約実施のための学術機関と民間企業の役割」  
日時： 2008年11月14日（金）、午前9:30～午後5:05  
会場： 国連大学本部（東京都渋谷区）  
主催： 国連大学、（株）島津製作所

- 沿岸水域には、工業、農業、都市からの排水によって、残留性有機汚染物質（POPs）はじめ、さまざまな汚染物質が含まれている。POPsは長期間、環境中に残留するだけでなく、地中の水や食物連鎖に吸収されやすいため、人間や生態系の衛生を大きな危険にさらしている。POPsをモニタリングし、その有害な影響を緩和するには、複数のセクターの協力に支えられたグローバルな戦略が必要である。
- 国連大学と島津製作所による、「アジア沿岸水域における環境モニタリングと管理プロジェクト」のようなイニシアチブは、学術機関と民間企業が協力することで、いかに環境問題への取り組みや究能力向上の効果を上げることができるかを示す例である。本プロジェクトは、アジアの開発途上国がその沿岸水域のPOPsのモニタリングと管理を行えるよう、積極的に支援している。
- 本会議は国連大学、島津製作所、および提携機関の12年間にわたる協力の総括であり、発展途上国の研究技術能力を高め、ストックホルム条約のアジアにおける実施を支援する上で、学術機関と民間企業がいかに優れた役割を果たしてきたかを中心に議論を行う予定である。
- 基調講演者には、スイス連邦工科大学、精華大学、フィリピン大学、ベトナム国立大学、日本環境安全事業株式会社、国際連合工業開発機関（UNIDO）などから国際的な研究者や実務家を招待している。
- 2009年5月にジュネーブで開かれる気候変動枠組条約第4回締約国会議（COP4）での新たなPOPsの追加登録も含め、ストックホルム条約に関する最新状況についても検討を行う。POPsとして追加登録が予定されている化学薬品のひとつに、半導体や電子産業で幅広く使われているパーフルオロオクタンスルホン酸（PFOS）がある。このことが特に日本にどのような影響を与えるかについては、このたびストックホルム条約事務局に提出した経済通商産業省（METI）の報告書についての発表の中で、METIの代表者が概要を説明することになっている。
- ストックホルム条約事務局の代表者も出席の予定である。
- 本会議の最後に、島津製作所の服部重彦社長も出席し、第4期プロジェクト（1期3年）の完了を祝うセレモニーを執り行う。本プロジェクトおよび会議のプログラムについての詳細は<http://www.unu.edu/esd/manage/event/Conference2008.html>を参照。
- 本会議は英語と日本語で行われる。同時通訳あり。

本会議の取材をご希望される方は、国連大学広報部の谷野（やの）までご連絡ください。  
電話：03-5467-1311、Eメール：media@unu.edu

国際連合大学は、人間の安全保障や開発といったグローバルな課題に関する知識の普及と人材の育成を目的として1975年に設立された、本部（東京）を拠点に世界各地に研究のネットワークを持つ国連総会傘下の独立機関です。

MEDIA ADVISORY